

＜日本精神衛生学会第28回大会ワークショップ＞

*** 支援コーディネーター研修「事例研究―連携」 ***

心のケアに関係した、アプローチ（治療）やサポート（介入）は、専門性をより受益者のために役立てるべく計画され実践されるものの、暗礁に乗り上げ、うまく機能しないことがあります。そこでは、「連携の力」が脆弱である場合が多く見かけられるのです。専門職はそれぞれに、自分たちの働きをモニターし、関係するものの視点を搭載しながら、続けて展開するスキルを身につけていく必要を感じます。

医師や臨床心理士、保健師、教員、福祉関係者、ボランティアで働く人たち、といったどの分野で活動する人も、「コーディネーターとしての視点から事例をみる」という発想で事例検討をする機会として、4つのワークショップを企画しました。それぞれにゲストをお願いしております。ご参加お待ちしております。

第28回大会事務局（E-mail：seishin_eisei28@yahoo.co.jp）にお問い合わせください。詳細は、チラシを作成していますので後日の配布&ホームページでご覧ください。

日 時：2012年11月23日（金曜日・祭日）

PART（1） 13：00～16：00 ①②

PART（2） 16：30～19：30 ③④

参加費：1セッション 4000円 2セッション 7000円

会場：東京農工大学 小金井キャンパス

募集人数：各25名（先着順）

※注 臨床心理士の方でポイント証明を希望される方はPART（1）（2）から計2セッションの参加が必要です。

①虐待―子どもと家族支援

コーディネーター

福島大学総合教育研究センター 中野明徳

1990代になって日本の社会では、親の仕打ちに抗議する子どもが現れ、子どもが子どもを殺傷する凶悪犯罪が発生するようになった。その徴候は2000年に入って、「子ども虐待」と「発達障害」というコンセプトに収斂した。この2つに底流するものは何か。被虐待児とその家族を支援する方法は何か。講師には長らく児童相談所で子ども虐待と関わってきた心理と福祉の専門家を迎える。本ワークショップではこの問題の本質を考え、援助のヒントを得る時間としたい。

②復職支援「失敗しないメンタルヘルス支援—休職・復職を中心に」

コーディネーター

(公益社)日本精神保健福祉連盟 大西 守

メンタル不調にある勤労者の休職・復職の問題は、対応に苦慮することが少なくない。職場でのリハビリ的な援助には限界があり、それを補完するようにつつ病者を中心としたリハビリテーション(リワーク)施設が増えてきている。しかしながら、こうした外部施設の活用に関して、職場関係者の理解は十分とは言い難い。

こうした状況を踏まえ、復職支援コーディネーターの活用が始まっている。たんなる当事者・関係者への対応にとどまらず、人事労務担当者への教育、休職・復職にまつわる就業規則の整備まで含めた総合的なサービスである。特に、復職支援の目標が、復職後の再休職予防に力点が置かれている点を強調したい。

③現場の力とこころのケア

—被災者支援を検証してみよう—

コーディネーター

パナソニック・ライフ・システム代表・明星大学 高塚雄介

東日本大震災においては、被災者支援活動の中で精神的支援(メンタルサポート)に対する期待と実践が多くみられた。日本精神衛生学会においても、「心の相談緊急電話」や「支援者のためのメンタルサポート電話」を実施したり、福島のこどもたちのサマーキャンプや、岩手県における仮設住宅避難者への支援等を実施してきた。このようなメンタルサポートの意味とあり方について検証するとともに、今後の課題を検討してみたい。話題提供予定として、現地における地方紙記者の見た被災者の悩み、首都圏に避難した福島の子どもたちの支援をしている団体から見る子どもたちの心、日本精神衛生学会MCR Tから見た課題などを取り上げてみたい。

④東日本大震災の被災住民と支援者の心をささえる

—岩手県田野秋村における「お手伝い」活動—

コーディネーター

前中部学院大学大学院 喜多祐荘

津波で家族を喪った人とそれを支える人に、毎年継続して関わる活動をしています。被災住民の哀しみと苦しみの繰り返しに日々接している支援者の共感と心配は尽きることがありません。

家族の喪失体験と、対象者に関わる支援者の共感的喪失感とが、並行的に変遷する過程が認められます。また家族を喪った人が同時に支援者を務めている方が居ます。(老人福祉サービス員、仮設住宅の中の相談員)

ワークショップでは、家族や支援者の心の変遷過程とその支援の課題、方法、効果、留意点などについて、「視点」「事例」「感想」「話し合い」を通して理解していただこうと思います。